

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 023	提案機関名 自然環境保全センター
要望問題名 ニホンジカ保護管理事業における中・長期的な生息環境評価手法の研究開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 第3次神奈川県ニホンジカ保護管理計画では、自然植生回復エリアと生息環境管理エリアの実施目標の達成について、本計画期間中は「林床植生の植被率」を、30年度程度の長期については「植生劣化レベル」を指標として検証することとしています。 これまでの保護管理事業とモニタリングから、一度大きく衰退した自然植生の回復は、非常に長い時間をかけて複雑で段階的な過程を経ながら進んでいくことが次第にわかってきました。しかし、林床植生の植被率が増加した後の中期的な生息環境の質の変化を評価する手法は、現在欠如しているのが実態です。 また、現在、長期的指標とされている「植生劣化レベル」については、植生劣化が進行している中で設定されたため、植生が衰退し尽くして裸地化した状況や、そこからの段階的な再生等を適切に評価することが困難な指標内容となっています。 このため、これまで蓄積してきた植生に関するモニタリングデータや、シカの生息状況及び捕獲状況等のデータを駆使して、シカの生息状況とその影響下にある植生の変化を多面的に解析することによって、保護管理事業の進展に伴う中・長期的な自然植生の回復等を適切に評価することができる生息環境評価手法を研究開発することを提案します。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター   ②畜産技術センター   ③水産技術センター   ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究企画部研究連携課
対応区分	①実施   ②実施中   ③継続検討   ④実施済   ⑤調査指導対応   ⑥現地対応   ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) シカ森林管理一体的推進手法の開発、及びシカ生息環境モニタリング		
対応の内容等	衰退した植生の回復に影響する要因は、シカ密度、植物の種類構成、光環境、時間（植生遷移）など多岐にわたります。シカの個体数管理による植生回復が植生保護柵内と同様の過程を経る可否は不明です。なぜなら、柵を活用したこれまでの研究から、シカの強い影響が長期間持続すると回復しづらい植物種があるからです。 シカ保護管理計画を開始後10年以上が経過してモニタリングデータが蓄積してきたことから、そのデータを慎重に解析して、回復の目標像や指標、現状レベルを適切に評価する手法を今後検討していきます。		
解決予定年限	①1年以内	②2～3年以内	③4～5年以内      ④5～10年以内
備考			